

# 福島 活動報告

全学連福島現地行動隊  
fzengakuren@yahoo.co.jp  
<http://www.zengakuren.jp/>

## 郡山の職場と駅頭で大宣伝。 署名は234筆でした

3月9日も郡山市で街頭宣伝を行ってきました。この日の署名数は234筆でした。

郡山駅前街宣に先立ち、JRの郡山総合車両センターと郡山市役所で、出勤する労働者にビラまき。ほとんどの労働者が受け取っていきます。学生がビラを撒いていることへの注目もあるようです。

郡山市役所にてビラまき



職場ビラ入れのあとは郡山駅前で宣伝。郡山駅周辺には専門学校などが多くあることもあり、学生・青年や高校生が多く通ります。朝から署名が集まります。

昼も、昼食後もおなじ駅前で宣伝。雨が降ってきてとても寒かったのですが、街宣への反応はとてもよいです。

先日に引き続き、若者の反応が目立ちます。そして、大熊町から避難している方ともお話になりました。「収束宣言」がまっ

たくのウソであることは私たちでもわかりますが、その方はそれを身をもって感じているわけです。「故郷に帰れないだろう」とも語っていました。

こんな苦しみ・悲しみを強制する政府・東電らが、なおも福島を切り捨てて原発を再稼働させようとしていることに、怒りがこみ上げます。政府・東電に一切の責任を取らせよう。3・11集会への大結集が必要です。フクシマの怒りに連帯し、すべての原発いまずぐなくそう! (ふ)



郡山では多くの若者が署名してくれます



**3・11集会まであとわずか。  
2万結集に向けて最後までがんばろう**

# 東北大学学生自治会、国労東北春闘行動に登場

～東北大学学生自治会のブログより転載します～

本日(3月9日)、国労東北春闘行動が仙台市内で行われるということで、小玉忠憲さん(国鉄分割民営化時の被解雇者1047名の内の1人)を先頭に全国労組交流センターの方々とチラシ配り・署名集めを行いました！



マイクを持って訴える小玉忠憲さん

小玉さんは、

「自分は国鉄分割民営化に絶対反対で闘った国労組合員として、資本から組合差別を受けて首を切られた。

それでも絶対にこんなことは許してはいけないという思いで25年間、闘って来た。

国鉄分割民営化こそ、日本の労働組合が闘えなくなった決定的な転換点であり、若者の半数が非正規職としてしか働けないような社会を生み出した攻撃だったからだ。

一昨年の4月9日に、『政治和解』という形で国鉄1047名解雇撤回闘争が終わらせられようとしたが、自分としては、その『政治和解』にまったく納得がいかなかったから、それ以降も闘いの旗を降ろさなかった。

そうしたら、今度は国労本部がそのことをもって、自分の組合員籍を奪うということをやってきた。

これが労働組合のやることなのか！

自分は闘う国労を甦らせて日本の労働運動を変えるために、国労本部を相手取って組合員権の回復を求める訴訟を起こした。ぜひ現場組合員の皆さんの力を貸してほしい！」

と熱烈にアピール。

これに応え、会場に向かう多くの組合員がチラシを受け取り署名をしていきました。

『原発いらない！3.11福島県民大集会』には国労を始め多くの労働組合も賛同をして集まろうとしています。労働組合の力に期待、大！3.11まであと2日！原発反対の労働者、そして学生は福島県郡山市・開成山野球場に集まろう！

こんなもの(東京電力からの文書)が届いた。

金を払って「はい、おしまい」というあり方は、かつて日米の原子力政策のためにビキニ事件が闇に葬り去られたやり方を思い起こさせる。こんなことは絶対に許されない。

また、自主避難者には20万上乘せで60万円が賠償金として支払われるのだが、なぜ避難者だけなのか。地元に残る人も避難した人も苦しんでいるのだ。もっと言えば、放射能被害や精神的重圧を受けているのは福島県民だけではないのだ。これは地元に残る人と避難した人との分断だ。

一切の責任は政府・東電にあることをハッキリさせよう。野田政権打倒、全原発廃炉へ、ともに闘おう。

ご被害者の皆さまへ

このたびの福島第一原子力発電所及び福島第二原子力発電所の事故により、被害をうけられた皆さまはもとより、広く社会の皆さまにご迷惑とご心配をおかけしておりますことを深くお詫び申し上げます。

弊社は、現在、原子力損害賠償制度にもとづき、被害を受けられた皆さまへの迅速かつ公正な賠償金のお支払いに取り組んでおります。

このたび、平成23年12月6日に原子力損害賠償紛争審査会において決定された「東京電力株式会社福島第一、第二原子力発電所事故による原子力損害の範囲の判定等に関する中間指針追補(自主的避難等に係る損害について)」を踏まえ、「自主的避難等に係る損害」に対する賠償について、賠償金をご請求いただく準備が整いましたので、請求書類一式をお送り申し上げます。

請求書へのご記入にあたって、ご不明点がございましたら、お手数ですが福島原子力補償相談室(自主的避難等ご相談専用ダイヤル:0120-993-724)にご連絡いただきますようお願い申し上げます。

誠意をもって迅速かつ公正に対応してまいりますので、ご請求のほど何卒よろしくようお願い申し上げます。

東京電力株式会社  
取締役社長 西澤 俊夫